



クラブ紹介 がんばってます!

山王中学校 陸上部



私たち陸上部には1年生14人、2年生23人、3年生9人の総勢46人が所属しています。部のモットーは「挨拶・返事・礼儀」です。顧問の先生に、日常生活からしっかりとすることが大切だと教えてもらっています。

毎週水曜日の朝練習は200メートルのインターバル走10本を、競技問わず部員全員で行っています。辛いと感じることもありますが、練習をすればするほど自分の成長を感じることができます。ほかのスポーツとは違い、自分の実力が数字で結果となって表れるところが、陸上の面白いところです。

9月末の新人戦は、市内の総合順位で2位でした。次の大会では優勝し、多くの選手が県大会に出場できるよう練習に励んでいます。

さやまの教育

元気な

さやまっ子



福祉体験教室(新狭山小学校)



10月24日(水)、4年生81人が、高齢者や障害のある方などの日常生活の大変さを体験する教室に参加しました。

当日は、狭山市社会福祉協議会の協力の下、車いすの試乗や、介助の体験、白内障の症状を体験できるゴーグルや手足に重りを付けて歩く高齢者疑似体験、目の見えない方の食事や階段の昇り降りなどをサポートする体験の3つを行いました。

高齢者疑似体験をした児童は「体が重くて動くのが大変だった。今度、まちでお年寄りに会ったら、荷物を持ってあげようと思います」と話し、実際に体験することで、思いやりや助け合う心の大切さについて学びました。

華やかな踊りで磨く美と健康

10月6日(土)／初心者フラダンス体験講座(堀兼公民館)

全3回で基本のステップを習得し、課題曲をマスターする講座。初めに歌詞の意味を理解することで、難しい手の動きも自然にできるようになりました。



一足先に育児の体験

10月13日(土)／両親学級(保健センター)

初出産を控えた24組の夫婦が参加。赤ちゃんの人形を使った沐浴体験や、保育士から育児の講義を受け、夫婦で赤ちゃんを迎える準備ができました。



29年度さやま市民大学地域ジャーナル講座の修了生がお届けします

さやま・レポート 狭山ステキ発見⑦



山王小学校の西側にある林の端には、「化け地蔵」と呼ばれるお地蔵さまが建っています。正式には「下水野の地蔵尊(市指定文化財)」と言い、川越藩の新田開発によって拓かれた、この地域の永続と、そこに住む人々の平穏無事な暮らしを願い、貞享2年(1685)に造立されたものです。

その当時、地蔵尊の周りにはケヤキなどが生い茂り、あまり人の通らない寂しい暗いところだったので、土地の者から「化け地蔵」と呼ばれるようになったそうです。また、この地蔵尊には、願いごとをするときには、地蔵が動かないように荒縄でつく縛りつけ、願いごとが叶うとその縄をほどいた、という言い伝えが残っています。子どもの夜泣きや病気を治したいといった願いが多かったそうです。

地蔵尊の側面には、当時の新田開発に携わった人々の名前が彫られています。そして、その子孫は農業などを営みながら、この地域を守っています。この地蔵尊もまた、地域の人々をいつまでも見守り続けるでしょう。

問合せ社会教育課へ内線5674

子ども達の笑顔あふれる交流の場

10月20日(土)／さやま子どもフェスタ(都市緑化植物園前芝生広場)

子育て支援の団体などが用意した8つの遊び広場に、約500人の親子連れが参加。段ボール遊びやバルーンアートに挑戦するなど、子ども達と一緒にパパやママも楽しみ、家族の絆が一層深まりました。



青空の下、赤ちゃん達も元気に遊んでいました



思いをつなぐたすきリレー

10月21日(日)／「こころゆめをつなぐふれあいチャリティーリレー(狭山稲荷山公園)

子ども達が、障害のある方や世代の異なる方たちと走ることで、責任感や思いやりの心が育つようにと開催。41チームの出場選手たちは、90分のレースを自分のペースで走り抜き、気持ちが一つになりました。



「ちふれASエルフェン」の選手もサポーターとして参加

声掛けから始まる事故防止

10月26日(金)／声かけサポート講習会(中央公民館ほか)

視覚に障害のある方の、駅でのホーム転落事故を防止しようと20人が参加。急に体に触れずにまずは優しく声を掛けるなど、サポートの方法を学びました。受講後、参加者は「声掛けをする勇気が出た」と力強く話していました。



サポートをするときは、介助者が障害のある方の半歩前に立ち、ひじの少し上を握ってもらいます



あなたが写っていませんか？広報さやまに掲載した写真は、広報課で撮影したものでしたら無料で差し上げます。広報課までご連絡ください。

観る人を魅了する自然美あふれる版画や絵画

9月29日(土)／吉田博展・ギャラリートーク(博物館)

明治から昭和にかけて活躍した風景画の第一人者・吉田博氏の作品35点を展示。初日は、市内在住で孫の吉田興文氏から、30回以上も摺り重ねて制作された版画などの展示作品の解説も行われました。作品を鑑賞した来場者は、その表現手法に感心していました。



未発表作品の「バラ1」と「バラ2」が初めて公開されました

歴史ひも解く遺物を探す姿は考古学者！

9月28日(金)／発掘調査体験(柏原地内)

調査を進めている奈良・平安時代の住居跡で、発掘作業を体験しました。調査員から説明を受けた後、参加者は、スコップなどで遺跡の土を削り、土師器や須恵器などの生活道具を発掘。昔の人々の生活に想いを馳せながら、地域の歴史への理解を深めました。



土器を傷つけないよう、丁寧に土を削っていきます